

月報 2020年 5月31日 No.352

石城山岳会

5月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

十万山 (448.4m)

勝賀岩、宗賀岩

愛宕山 365m

御齊所山 392m

男鹿岳 (1777m)

朝日山 796m

滝富士 306m

江名「愛宕山」

岩登り訓練

栄蔵室 881m、花園山 798m

和尚山 803m

甲子旭岳（1835m）

島倉山 87.4m

媼石(おないし)、千五穴(せんごけつ)整備

権現山(ごんげんやま)

閼伽井嶽 604m

登山教室「閼伽井嶽（604.3m）」

勿来「犬飼山」往復

田人「愛宕山」周回

遠野「弁天山」周回

矢大臣山

入遠野川源流探訪

登山教室5月山行『差塩三十三観音と宇宙石』

良々堂山と宇宙石

市内3町最高峰を歩く

八溝山 1022m

四倉町「高倉山」

大久町「大場山」

十万山（448.4m）

2020. 3. 30

甲高

うつくしま百名山の一山、十万山に登ってきました。いわきからは県道35号線を北上します。福島県の山々というサイトに「大堀相馬焼で有名な大堀地区より県道35号線を南に1km余り南下した井出地区に案内板がある」とあります。本来であればそこから井出林道を通った先が登山口のようにですが、林道入口には「車両通行禁止」のバリケード。よって、そこから登山開始です。

200mも進むと藪漕ぎのはじまりです（震災以降整備されていないようでした）。雑草と蔓が生い茂る林道（廃道）を進んでいくと徐々に崩落が激しくなり、やがて林道は消失して溪谷歩きの様相を呈してきます（台風19号の影響でしょうか）。登山道も当然見当たらず、台風で流されたであろう「十万山登山道入口」の看板があります。さらに遡上し右往左往しながら地図を参考に尾根にとりつきます。

尾根からはさらなる藪漕ぎを経て、2017年の山火事後に新しく立てられた「山祇神社」の祠跡に到着しました。そこから北東に100m進むと三角点がありました。帰りは、来た道を忠実に戻りたいのですが、やはり藪漕ぎで苦労しました。400mの山とは思えない山行でした。

7:40 案内板—8:20「十万山登山口入口」の看板—山頂 9:30—10:20 案内板



山祇神社の祠跡



三角点

勝賀岩、宗賀岩

令和2年4月11日 渡辺敏夫、他1名

新型コロナウイルス拡散防止のための緊急事態宣言が全国に適應されるに至り、遠出が制限されることになったので、いわき市内の行ってみたいと思っていた勝賀岩に妻と一緒に出かけた。勝賀岩は、中止になったが先月のいわきの山を歩く会の会場でした。行きたかったが天候が悪かったので参加しませんでしたので、歩いてみようと思った。ワンダーファームから周回ができそうなので、高速道路のガードの先に車を止め歩き始めた。天候はますますで気分良く歩き進んだ。丁度アカヤシオ？が見ごろでゆっくりと進んだ。ほどなく勝賀岩に到着、露岩の快適な太平洋が望める展望場所だ。勝賀岩の先に宗賀岩へのルートがあると思って進むと、白岩への下山コースになってしまう。ルートを確認めると勝賀岩へ入る手前のところに宗賀岩への道標があった。誰にも会うこともなく陽だまりを楽しみ、お昼を食べながらゆっくりと出発地へ戻った。ゆっくりと十分休憩をとりながら3時間のコースでした。



コースタイム 登山口 8:59→ため池 9:07→勝賀岩 10:02→宗賀岩(189m)→林道 10:38→倉庫 10:49→馬頭観音 10:56 11:21→岩下不動尊 11:28→登山口 12:12

愛宕山 365m

令和2年4月16日

渡辺敏夫、他1名

先週に引き続き、妻と一緒に田人の愛宕山へと出かけた。外出を自粛しなければいけないが、3密とは縁がないところなので許していただけたと思い出かけた。田人支所から少し先が愛宕山一ノ倉登山口。車は通行に支障のない路肩に駐車した。登山道はスギ林の中をゆっくりと登りほどなく山頂に到達した。山頂からは展望がきかないが、山頂から少し進むと、平子さんが設置してくれた丸太のベンチが置かれている。そこからは勿来方面と太平洋望むことができる。風が冷たいので山頂から少し下がった日当たりの良い場所でお昼を食べて下山した。

コースタイム 一ノ倉登山口 9:42→山頂 10:32 11:04→山頂直下 11:06 11:25→登山口 11:49



御齊所山 392m

令和 2 年 4 月 16 日

渡辺敏夫、他 1 名

愛宕山を下山して、時間があるので御齊所山へと移動して登りだした。御齊所山へは鳥居がある神社入り口がありそこに車を止め歩き始めた。ゆっくり休憩をとりながら往復 1 時間弱。御齊所山山頂の社殿は最近作り替えられ真新しい。二百数十の石段から信仰をもつ山のありがたさが伝わってくる。



男鹿岳（1777m）

2020. 4. 25

甲高

福島と栃木の県境にある男鹿岳に行ってきました。残雪期でなくては藪がひどくて難しい山との情報を得ての挑戦です。

駐車は、南会津の田島町から水無川沿いに行った栗生沢地区の突き当たり。滝沢橋にバリケードがあり、4、5台は駐車可能です。

ここから長い林道歩き。林道は所々が崩落していて危険を感じる場所もありますが、おおむね歩きやすく約1時間で釜沢橋、さらに1時間で北西尾根登山口に到着です(ここまで約8km)。

いよいよ登山開始ですが、登山道らしいものはありません。藪漕ぎと道迷いを覚悟して、Geographicaでマークしていたのですが、前日の降雪で2名の先行者のトレースがあり助かりました。おかげで多少の藪漕ぎはあるものの順調に山頂を目指せました。

標高1400mぐらいから藪から解放され圧雪と新雪の急登が続きます。しかし、ここでも先行者のおかげで持参したアイゼンは使わず、キックステップのみで高度を稼ぎ、男鹿岳山頂に到達しました。

天候に恵まれ、那須連山、会津駒ヶ岳等が一望できます。下山は登りほど藪には悩まされませんでした。北西尾根登山口付近は踏み跡が消えていて多少の道迷いがありました。そこから、長い林道を歩いてようやく到着となりました。

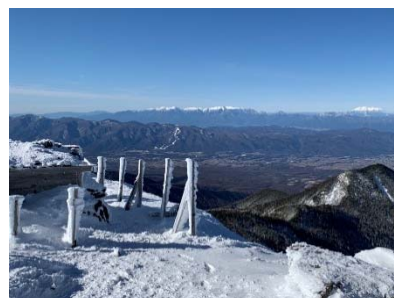
滝沢橋 5:50—釜沢橋 6:45—北西尾根登山口—7:50—男鹿岳山頂 10:10—北西尾根登山口
11:20—釜沢橋 12:10—滝沢橋 13:00



崩落した林道



約1600地点



山行報告 岩登り訓練

5月に予定していた岩登り訓練だが、新型コロナウイルスで遠くに行けないので繰り上げて実施した。

2020年4月26日(日) 丑ノ倉

秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、長谷川、根本、芳賀

支点の取り方、器具(8環、ATC、ムンターヒッチ)による懸垂下降、途中固定、登り返し、肩がらみ下降。

帰路、大山祇神社の方に戻らず直進したら、台風19号の爪痕で道が荒れており、深くえぐれた溝に私の軽トラックの左側前後輪がはまってしまい。皆さんの協力を得てやっと脱出するというハプニング。



桐ヶ丘大山祇神社
～二段の滝～ニッ箭
山男岩北面で懸垂下

降、登攀訓練、月山岩峰経由で桐ヶ丘大山祇神社へ。

登山口にロープが設置してある、ボンコを作っていないのでスリップして使いにくい。

4月29日(水) ニッ箭山

秋葉信夫、栗崎透、柏村、佐藤幸子、根本、芳賀



5月5日(火) 丑ノ倉

秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、柏村、吉田睦、根本、芳賀

支点の取り方、懸垂下降、途中固定、確保法、登攀練習。

終了後、前回気になった桐ヶ丘大山祇神社からの月山登山口の固定ロープをバタフライ・ノットで輪を作り設置し直した。

座学で「ロープワーク」やっているが、「何故、ロープワークが必要なのか」を実際の場で体験することができました。



5月11日(月) 丑ノ倉

秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、吉田睦、芳賀

シングルロープでの懸垂下降、途中固定、登攀練習、立木への支点の取り方、チロリアンブリッジの張り方。

(文責：秋葉)

栄蔵室 881m、花園山 798m

令和 2 年 4 月 27 日

渡辺敏夫



2 週続けて山に出か出たので妻の腰の調子が悪くなってしまったので、いわき市と北茨城市との境界地域の栄蔵室と、花園山へ、一人で出かけた。栄蔵室は茨城県内の最高峰である。茨城県内に入り県道 27 号を西へ進み、花園溪谷を抜けると栄蔵室の登山口がある。県道わきに駐車スペースがあるが、人がいないので北登山口の近くの路肩に駐車して歩き始めた。北登山口から歩き始めたがこの辺りは湿地が多く何度も水路を横切る。谷筋から離れスギ林の中を進むと造林小屋があり林道が現れた。しばらく林道を進む。案内板に沿って進むと栄蔵室直下の登りになると間もなく富士山が見えるという展望台が現れる。今日は春霞がかかって遠くを見通せないで富士山は見えない。栄蔵室の頂上は展望がきかないので、ここで周りの景色をながめて休憩する。さらに進むと花園山の分岐にたどり着いた。

花園山までは少し下って登る。天気予報だとお昼ごろから雨の予報だったので、午前中は晴れていたが次第に雲行きが怪しく、12 時過ぎから雨が降り出した。丁度お昼の休憩をとりながら雨が上がるのを待っていると、20 分くらいで雨が上がり始める。分岐に戻り進むと南登山口に到着し林道を進むと車のところに戻った。約 3 時間の行程でした。地図にない林道がいろいろあり道標がないと迷いそうでした。

コースタイム 駐車地点 10:01→北登山口 10:09→造林小屋 10:35→林道分岐 10:57→山頂直下の林道 11:07→富士見台 11:12→栄蔵室山頂 11:16→花園山分岐 11:34→花園山山頂 11:53→休憩 11:58 12:26→花園山分岐 12:40→南登山口 12:56→駐車地点 13:09

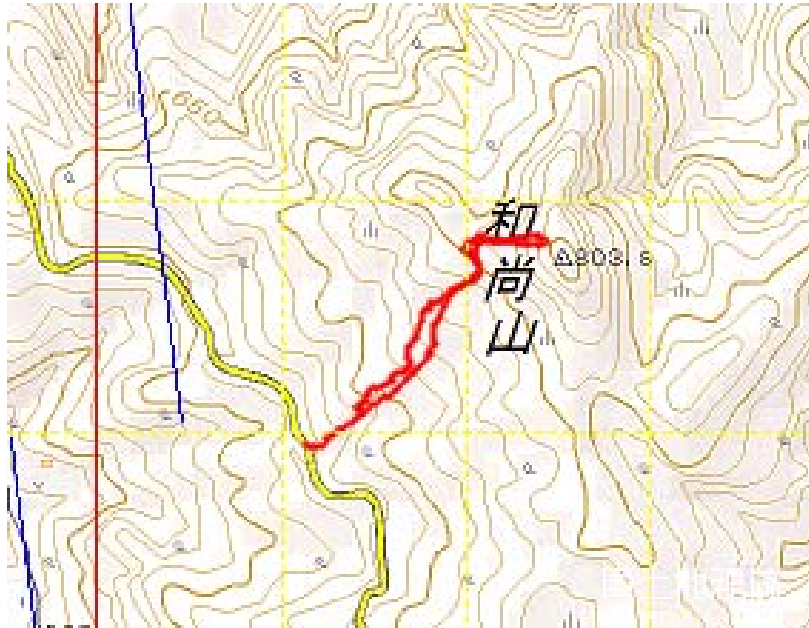


和尚山 803m

令和 2 年 4 月 27 日

渡辺敏夫

栄蔵室の登山口からさらに県道 27 号線を塙方面に進むと、和尚山の登山口がある。登山口の標識があり、数台の駐車場も設置されている。和尚山山頂までの標高差は 140m 弱。歩きやすい登山道で往復 30 分程度でした。山頂は広々としていて山頂からの展望はありません。



朝日山 796m

令和 2 年 4 月 30 日

渡辺敏夫

朝日山の山頂はいわき市と鮫川村の境界にあり、登山口は鮫川村にあります。しっかりした道標が鮫川村により設置されています。東登山口から西登山口に下山する周回コースをたどりました。きれいに整備された登山道は、とても歩きやすい。西登山口への分岐を過ぎしばらく登ると朝日山山頂。山頂は広々していて見晴らしがとても良い。富士山が見えるようで案内があるが、今日は見えない。分岐から西登山口へ下山した。西登山口から道路を 15 分ほど歩いて駐車地点へ戻った。

コースタイム 東登山口 9:58→西登山口分岐 10:14→朝日山山頂 10:17 10:25→分岐 10:30→西登山口 10:59→東登山口 11:12

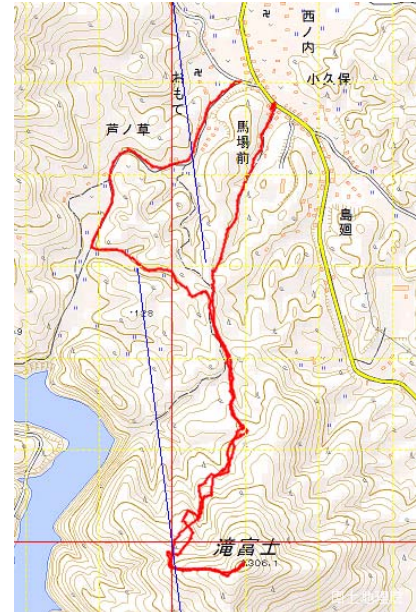
○



滝富士 306m

令和2年4月30日

渡辺敏夫



朝日山から下山して田人を通して遠野町の滝富士登山口に来た。登山口には案内板があり駐車場もある。あいにく駐車場が一杯だったので、近くの集会場の駐車場に車を止めて歩き始めた。スギやヒノキの林の中を進む。天候がよく気持ちよい。少々汗ばんでくる。途中子供連れの親子とすれ違う。尾根筋の急登を進むとほどなく滝富士山頂に到着した。山頂からは勿来、湯本方面を見渡すことができ、眺めがとても良い。ゆっくりとお昼を食べて下山した。途中分岐の道標があり芦ノ草登山口へと下山した。こちらのコースは湿地帯の中を進んでゆく。こちらから登るのもいいようだ。車は車道が広がっている路肩に止められそうである。

コースタイム 登山口 12:05→芦ノ草登山口分岐 12:18→滝富士山頂 12:47 13:17→分岐
13:41→芦ノ草登山口 13:49→登山口 14:00

文責 渡辺敏夫

江名「愛宕山」

2020年5月1日（金）

太

出勤前の朝の散歩で、市立江名小学校まで行っただが、その近くにある「愛宕山」に登った。

江名小学校（江名字天ヶ作 154 番地）は、主要地方道小名浜・四倉線の新江名トンネル脇にある。校舎から南東に見える、こんもりした山が「愛宕山」。現在、知る人は少ないだろうが、昔から山頂に愛宕神社の祠があるため、愛宕山と呼ばれてきたものと思われる。

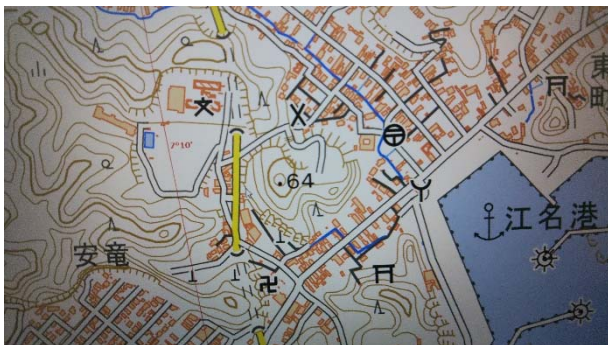
江名小学校の下、新江名トンネルと安竜トンネルとの間、真福寺駐車場の擁壁の脇から登ってみる。かすかな道跡はあるが、倒木などで荒れているので、無視して直登する。常緑樹が多く、西日が射さないためか雑草は少なく、急斜面でもなんとか登れる。すぐ山頂で、小さな石の祠が町の方を向いて置かれていた。祠の中には愛宕神社の石札。家屋が建てこむ江名の町は、今も火伏の愛宕様に守られているようだ。

東側が宅地造成等で崖となり、かつてと違って山頂からの眺めは良い。見下ろす町の向こうに江名港と太平洋、港左右には三角山（公園）と中田山が見える。

ほぼ来た道に戻って下山。切通しを抜け、江名の街の中を歩いてから帰宅した。

タイム

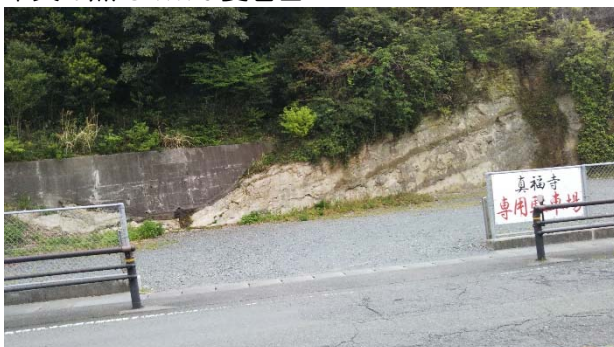
5：50 江名小学校→5：55 真福寺駐車場→6：05 山頂→6：10 江名小学校→6：20 江名郵便局前



中央の点 64mが愛宕山



江名小学校から見た愛宕山



真福寺駐車場（奥の擁壁を右に登る）



山頂の石の祠（中に愛宕神社の石札）



愛宕山山頂からの眺め。左に三角山公園トイレ建物、右に中田山。

甲子旭岳（1835m）

2020. 5. 3

甲高

登山を始めて間もない頃、甲子山山頂から正面にそびえる甲子旭岳に圧倒され、いつかは登りたいと考えていました。

駐車は大黒屋脇です。なお、本日大黒屋は日帰り入浴はできませんとのこと。阿武隈川の源流を正面に登山開始です。長いつづら折りを経て、猿が鼻、大白森山との分岐へと進みます。分岐過ぎから登山道の雪が踏み抜きとなり、思った以上に汗をじぼられます。やがて、甲子山山頂へ。正面の甲子旭岳が堂々としています。甲子旭岳へとけ残った雪稜を下ります。

ヤマレコユーザーの記録を参考に、Geographica で狭い間隔でマーク、これが大変有効でした。登山道は枝がうるさく、前に進むのに苦労させられます。1600mあたりでアイゼン装着。雪面がしまつて傾斜もきつくなり、灌木をつかみながら登高し、やがて山頂へ。天候にも恵まれ 360° の眺望。しかも、山頂独り占め。

休憩して、坊主沼避難小屋へ下る予定でしたが、ハイマツとシャクナゲのあまりの藪に耐えかねて、自ら雪の崖を急降下。期せずして滑落停止訓練までできました。

マークを外れたため、地図と Geographica を見ながら甲子山へむかい下山しました。

大黒屋登山口 5:10ー猿が鼻 6:20ー甲子山山頂 7:06ー鞍部 7:25ー甲子旭岳山頂 8:56ー甲子山山頂 10:15ー登山口 12:10



甲子山山頂



甲子山からの甲子旭岳



甲子旭岳山頂

山行報告 島倉山 87.4m

令和2年5月4日(火)

秋葉信夫

県道20号線(旧国道6号)平から勿来に向かっていくと、下船尾交差点で小名浜方面を分けてる
と前方左側に見えてくる小高い丘がいわき市小名浜島にある低山・島倉山です。

登山口はタウンズヴィルニュータ

ウン入口のコンビニのある信号機

の交差点を東側に入っていくと赤い

鳥居の所。

岩を削った階段状で斜めのいきなり

の急登で滑り落ちそうになりながら笹や木の枝に掴まって登る。尾根に出るとツツジの植栽もあり、荒れてはいるもののかつては大切にされてきたであろうことと思われる。館跡には石碑と祠がある。



島倉山館は岩城氏の一族であった岩崎氏の城館である。岩崎氏はかなりの勢力を誇っていたらしいが、有力な家臣は主君にとって脅威ともなりかねない。そうしたこともあって、岩崎氏は応永17年(1410)に岩城隆綱に攻撃され、滅ぼされてしまったという。



館跡から藪をかき分け頂上に、三等三角点と祠がある。下山は反対側の尾根を辿るがこちらにも藪、やがて合気道道場のところに出た。刈り払いをすれば歴史を偲ばせるステキな散歩道になるであろう。(文責・秋葉)



媼石(おないし)、千五穴(せんごけつ)整備

2020年5月7日(木)

参加者 秋葉、根本、蛭田、吉田、尾形夫妻、柏村、栗崎夫妻 計9名

「媼石」と古墳「千五穴」は、平・下高久にある。

私が野菜作りをしている畑がこの地区にある関係で、すぐ近くにあるおな石を知った。

媼石伝説は、昔、船乗りの兄弟が海に出たまま帰って来ずに、心配した母親が山の上から海を見ながら帰りを待ち、遂には石になってしまったという言い伝えらしい。

毎年、私達夫婦はここで初日の出を拝む。

石になった媼と同じ海を望み、一年の無事を祈る。

下高久の人達が整備保存していたが、高齢になり最近では手をかけられない状態だった。私が下高久の重鎮に整備の許可を頂き、山岳会の有志に協力をいただいて、草刈りをしてきた。



古墳・千五穴は、時代はわからないが、人々を埋葬した洞穴が百ぐらいあるそうだ。

ほとんどは藪の中で、存在を確認できるのは五、六ヶ所ぐらい。

そこに上がる道の草刈りをして、急斜面にロープを垂らしてきた。(文責 栗崎透)



権現山(ごんげんやま)

2020年5月7日(木)

参加者 秋葉、根本、蛭田、吉田、尾形夫妻、柏村、栗崎夫妻 計9名

私の家の南側に、権現山はある。

この一帯は、戦国時代の南白土城の遺跡らしい。

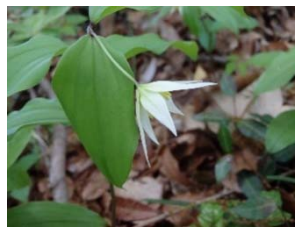
今回は我らの散歩道でもある、花地(はなじ)稲荷神社からの縦走をした。

新川沿いの南白土、古宿から花地稲荷神社への道がある。



急登を登ると鳥居がある。ここからは直登はできない斜度で、参道はジグってある。山頂の祠でお参りをして、根本さんが整備した道を増福寺に向かい降りる。

その先も、根本新道？で権現山の尾根を目指す。足元には季節の花々が賑わいこれもまた楽しい。





106,1m 四等三角点(ハツ坂)の山頂からは、湯の岳から剣ヶ峰 の七峰はもちろん、その先の二ツ箭、屹兎屋、三森山までを見渡せる。

感動すること間違いなしのロケーションだ。ぜひ、一度は登って確認していただきたい。

磐城緑蔭中高や平五小の裏からだと 10 分、15 分の道のりだ。

(文責・栗崎透)

関伽井嶽 604m

令和2年5月9日

渡辺敏夫

関伽井嶽登山ルートが60周年記念誌に紹介され、かねてから全部のルートを歩いてみたいと思っていた。下ヶ屋敷登山口から裏参道の七曲りを登り関伽井嶽薬師に着いた。薬師から関伽井嶽への道が分かりづらく、薬師本堂の左側のお墓の脇に登山道があった。関伽井嶽からケルンを通り南東の尾根道を下った。しばらく下ると望洋台と呼ぶ地滑り工事擁壁の最上部に出る。ここからの眺めはとても良い。さらに下ると成沢への分岐になる。この分岐から地滑り防止擁壁の最下部を西へ進み、成沢からの道路に出る。この道はおそらく工事直後は歩きやすい道だったのだろうが、誰も利用しないので藪が生い茂り、特にとげのある茨が密生しているのでとても歩きにくい。成沢からは関伽井嶽への南西尾根を登ったが、このルートも道がなく藪漕ぎを強いられる。中腹までは密生した笹藪があり難儀したが、そこを過ぎると上部は落葉樹と針葉樹のまばらな混交林で歩きやすい。再度関伽井嶽から関伽井嶽薬師へ行き表参道入口へ進んだ。そこから荒沢瀧不動尊の社の脇を通り下ヶ屋敷登山口に戻った。関伽井嶽薬師周囲は神聖な場所として森林の伐採をしなかったためか、樹齢数百年はするかと思える巨樹が方々に見受けられる。また、表参道の佇まいから往時がしのばれる。楽しい登山でした。



コースタイム 下ヶ屋敷登山口 8:48→関伽井岳薬師 9:23→関伽井嶽 9:53→ケルン 9:58→望洋台 10:13→成沢分岐 10:25→成沢登山口 11:10→ケルン 12:08→関伽井嶽 12:11 12:41→関伽井嶽薬師 13:01→表参道参詣道入口 13:31→荒沢瀧不動 13:38→関伽井嶽薬師への道分岐 13:54→下ヶ屋敷登山口 14:18

文責 渡辺 敏夫

登山教室「関伽井嶽（604.3m）」

令和2年5月10日（日）

教室生3名（国井さん、高橋さん、猪狩さん）秋葉、根本、栗崎夫婦、尾形夫婦、赤塚、菊池、芳賀

石城山岳会第三期登山教室の第一回目の教室山行「関伽井嶽」は、小雨の中、常福寺（赤井嶽薬師）北側の赤井停車場線（133号）脇の駐車スペースに集合し、猿倉路の一部と関伽井嶽周回でした。

【猿倉路の一部】

駐車スペースから北側に斜面を下り、小川を渡り少し登りかえし林道の出るまでピストン。この斜面一帯は次原平と呼ばれ、途中に次原巨杉があります。尚、この登山道は、山岳会関内さんが幼少の頃、母親と歩いた思い出の参詣道で、記憶を頼りに整備したそうです。

【関伽井嶽周回】

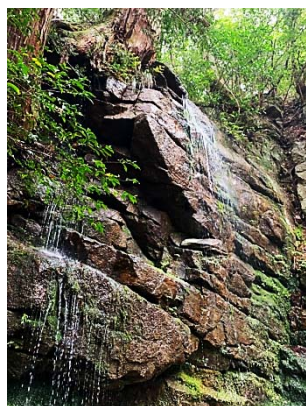
駐車スペースから常福寺（赤井嶽薬師）北側の尾根を登り、関伽井嶽山頂。ここで小休止後、「レストラン望洋台」を目指して緩やかな下り（尾根）を歩く。望洋台からの展望は素晴らしくしばし休憩。ここから厳しい下りを慎重に歩き下ヶ屋敷登山口に到着。林道から登山道に入り厳しいトラバースや登り下りを経て、荒沢瀧不動に着き、昼食。少し歩くと赤井嶽薬師旧参道入口。緩やかな登りの参道を歩き赤井嶽薬師到着。



次原巨杉



荒沢瀧不動



勿来「犬飼山」往復

2020年5月16日（土）

太

地上デジタル放送中継局「いわき窪田」（※1）がある、犬飼山（勿来町酒井犬飼※2）に登った。

茨城県境から600m手前、県道10号線の坂の途中に、林道入口がある。鎖で閉鎖されて乗り入れができず、少し入口をふさぐ形で駐車。鎖を越え、水田跡を左に見ながら、徒歩で進む。

120mほど行くと、廃屋（Google 地図では勿来町酒井坂ノ上33所在）があり、その少し先からは、谷間の地形、小川に沿って道は緩く下る。右に現れた伐採地過ぎると、道は緩く上り、突き当たりの少し開けた場所で右にカーブ。その後は、カーブのたびに高度を増していく。数度のカーブの後にデジタルテレビ中継局のある山頂に到着。

山頂の中継局は、立派なパラボラアンテナ付き鉄塔のある施設。周囲を樹林に囲まれているが、少し下の石鳥居の周辺が開けており、樹々を透して麓が望めた。「蔵王大権現」額のある鳥居をくぐると、ひとつ屋根の下、石祠と石仏が並んで祀られ、周囲に犬の置物、由来の刻まれた石碑が建つ、少し不思議な雰囲気のある境内。

しばし休憩後、行動前の駐車が心配で、登ったルートそのままに林道入口まで戻った。

（※1）地上デジタル放送中継局（市内）

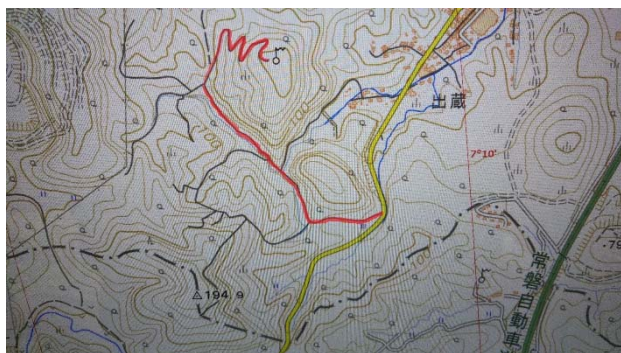
運用開始2007年「いわき/いわき南」（湯ノ岳）、同2009年「水石/いわき北」（水石山）、同2013年「いわき窪田」（犬飼山）、同2010年「いわき遠野」（弁天山）、同2010年「いわき湯本」（いわき湯本病院北）、同2010年「大久」（大場山）

（※2）犬飼山（勿来町酒井犬飼）

Google 地図でクリックすると、地デジ中継局が「勿来町四沢犬飼」とデータ表示されるので注意。

タイム

10:30 林道入口→10:35 廃屋→10:50 犬飼山山頂（地デジ施設・神社）→11:10 林道入口



田人「愛宕山」周回

2020年5月16日（土）

太

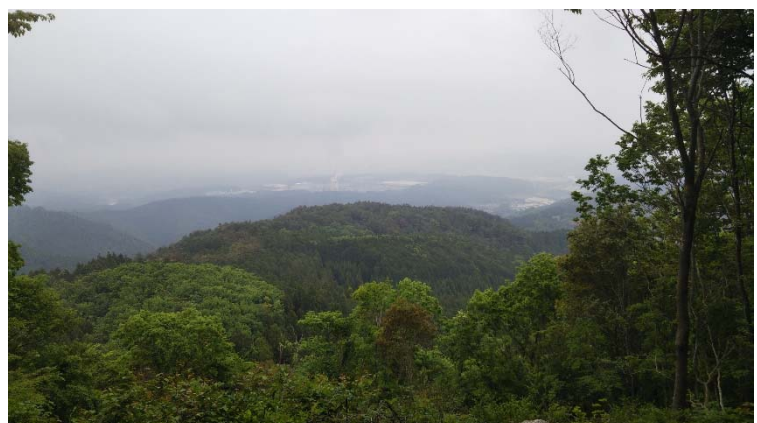
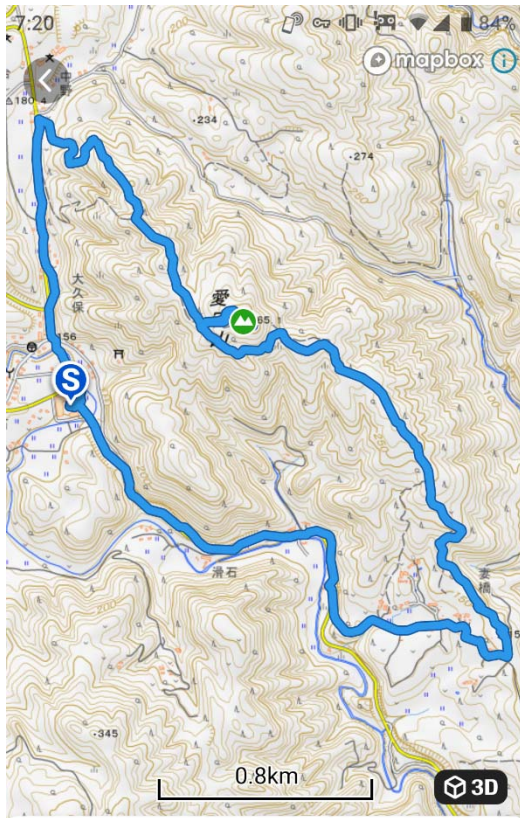
田人ふれあい館（田人支所）起点に、中野登山口（田人町黒田）から登り、「愛宕山」の山頂三角点を踏み、妻橋登山口（田人町旅人）に下りて周回した。

中野登山口まで（約1km）を歩き、よく整備された登山道を山頂まで軽快に登れた。曇天のうえに霞がかかっていたので、山頂分岐から田人町平石方向も、山頂から山田町南台方向も、眺めはいまひとつ。遠くの海や峰々を望むことはできなかった。

山頂分岐から妻橋登山口に向かって下る。いたるところ倒木が道をふさぎ、小枝も道の両側からはみ出し気味。倒木は乗り越え、小枝は山刀で掃うが、ずっと樹林の荒れた道を歩くので、集落まで長い道のりに感じられる。妻橋の集落から県道まで（約1km 弱）下ると、支所まで（約2km 弱）の県道上りを歩いた。周回は、歩行 7.6km のうち半分为舗装路の歩き。愛宕山を手軽に楽しむなら、中野登山口からの山頂往復を推奨する。

タイム

7:25 田人ふれあい館→7:40 中野登山口（県道）→8:05 山頂分岐→8:15 愛宕山山頂→8:35 山頂分岐→9:15 妻橋集落（林道終点）→9:30 妻橋登山口（県道）→9:50 田人ふれあい館



遠野「弁天山」周回

2020年5月16日（土）

太

地上デジタル放送中継局「いわき遠野」(※)がある弁天山に、常磐交通「表バス停」から登った。

付近に駐車場はないので、県道20号線の路肩に駐車。「表バス停」付近から見ると、県道から南へ樹林の中を少し斜めに上っていく脇道、細い舗装路が見える。そこを進んで、県いわき林業事務所の鳥獣保護の看板がある場所を左折し、未舗装の林道を上っていく。途中、大規模な太陽光発電施設を見渡せる急カーブがあり、そこからは荒れた道をさらに進むと、携帯電話基地局と思われる高い鉄塔が右手に出現する。デジタルテレビ中継局のある山頂は、その少し先である。山頂は、樹木に囲まれて見晴らしはよくない。登ってきた道の方（鶴石山方向？）だけ樹林が切れているが、曇天と霧のために遠くが見えない。

下山は、太陽光発電施設の少し下まで林道を戻り、地図を頼りに脇道（山道）に入った。杉林や藪がかった箇所を抜けると、「上根本バス停」近くの民家裏に出ることができた。

車に戻る途中振り向くと、山頂の地デジ施設は見えないが、携帯電話用と思われた鉄塔が確認できた。

(※)地上デジタル放送中継局

総務省東北総合通信局によると、いわき市内で6か所が運用中である。

運用開始 2007年「いわき/いわき南」（湯ノ岳）、同 2009年「水石/いわき北」（水石山）、同 2013年「いわき窪田」（犬飼山）、同 2010年「いわき遠野」（弁天山）、同 2010年「いわき湯本」（いわき湯本病院北）、同 2010年「大久」（大場山）

タイム

5:50 表バス停→6:00 林業事務所看板→6:10 太陽光発電施設→6:15 アンテナ鉄塔→6:20 弁天山山頂（地デジ施設）→6:30 太陽光発電施設→6:35 脇道分岐→6:45 上根本バス停



矢大臣山

2020年5月17日(日)

柏村2、太、山形、菊池、西

矢大臣山は、いわき市、田村市、小野町の2市1町の境界をなす892mの山。新型コロナウイルス感染症に注意しつつ、いわき市の最高峰を登る(いわき市単独最高峰は鬼ヶ城山892m(三角点887m))。小野町湯沢側ルートのうち、荒屋敷登山口コースが閉鎖のため、川羽内登山口コースで登った。

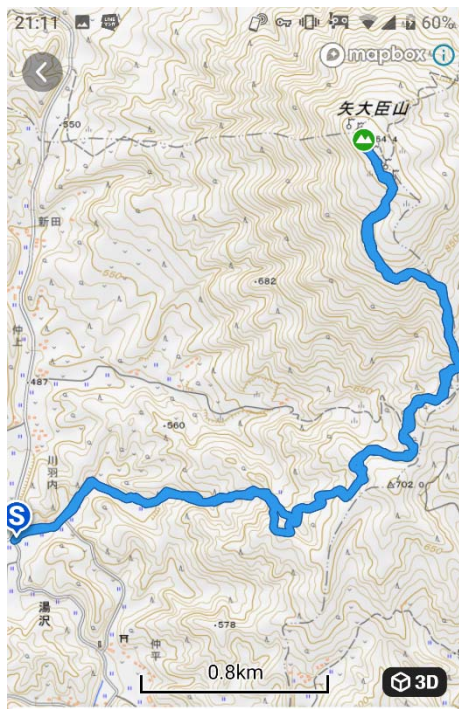
川羽内登山口の町道沿いの広場が駐車場になっており、案内板がある。トイレはない。案内板に従い、町道の広場から奥に進むと、草を刈った広場に臨時駐車場との札が立っていた。杉林に入ると水場があり、急な道を上っていくと切通がある。切通を抜けた先は丁字路で、右に曲がって荒れた農地を左に見ながらさらに登る。道は広葉樹林の中を緩やかに上り、ブナの巨木のところでひと休み。目の前に蓬田岳を望むことができ、天気も良く、風が心地よい。荒屋敷登山口からのコースと合流すると、少し急な上りになる。階段を上ったところが長持石。最後の急な坂を上ると、行く手に林立するアンテナとともに、広い芝地が広がる。振り返ると市内の山々が大展望。まずは、三角点と石祠を目指し、その前で記念撮影。展望台の下、テーブル・ベンチにて昼食、ゆったり休憩。余談だが、山頂のトイレは水洗ではない。

下山は、登りコースをそのまま下りた。

(文責：太)

タイム

9:20 広場→9:50 水飲み場→10:00 切通し・丁字路→10:35 ブナ巨木→10:50 荒屋敷コース合流→11:20 長持石→11:45 山頂(三角点・祠)、13:00 展望台→13:20 長持石→13:55 ブナ巨木→14:05 切通し・丁字路→14:15 広場



山行報告 入遠野川源流探訪

2020年5月17日(日)

秋葉信夫、栗崎透、栗崎容子、根本一男、吉田睦、長谷川裕、佐藤幸子、小林憲児 計8名

県道14号線(いわき石川線)を遠野方面へ真っすぐ行き、途中20号線に入るとあとは入遠野川沿いに北上し、入遠野ダムを目指す。しかしダム手前の林道で「この先通行止め」となり、道路わきのスペースに駐車。

空は真夏のような真っ青な青。風がそよぐ木漏れ日の林道。今日は最高の探検日和!…のはずが何故か開始5分でお腹が鳴る。これから藪漕ぎが始まるだろう事を見込んで、甘いものを次々に口に放り込む。

林道をのんびり行くこと約30分で入遠野ダム。そのままダムを横目に通りすぎると程なくして「大滝橋」。ここから橋の下に降りるのか〜と橋の手すりからかなり低い川面をのぞき込んでみると、リーダーが脇のガサ藪におもむろに突入して登っていく。そうだった、沢登りは歩きやすいルートを選び、必ずしも沢のみを歩く訳ではなかったとハタと気づき、リーダーに慌ててついていく。

藪はすぐ終わり、頭上の新緑と沢の色濃い苔で、すべてが緑色の美しい沢に出る。あとは時々出会う小さな滝を迂回しながら、どんどん沢をさかのぼって行く。滑りやすい苔や、濡れた石、倒木をよけ、歩きにくいアスレチックコースを行く緊張と疲労から再び私のお腹が鳴る。秋葉さんからナチュラルチーズのクラッカーサンドをもらい、ちょっとした塩気で少し生き返る。

湿度と疲労感の高い沢でおいしかったもの「きゅうりの塩昆布漬け、チーズクラッカー、ラム酒とナッツのケーキ、ソーセージ入りの煮物、柿のドライフルーツ、カルピス味のマシュマロ、シドキのおひたし……。不思議だ、植物名はさっぱり思い出せないのに食べたものはすべて覚えている。

また、道中食べておいしかった野草は、ウドの仲間エゾニユウ、程よい苦みのクレソン、ちょっと酸っぱいスカンポなど。

ようやく折り返し点の「花滝」に到着。行きの道半ばですでに、履きなれない沢靴でかかとがズル剥けになったため、滝に着いたときはもう正直、安堵感しかなかった。両手を広げて滝のマイナスイオンしぶきを全身の浴びてリフレッシュ。しかしその後「これから林道をひたすら2時間歩いて下山する」と聞いて再び疲労感でいっぱいになり、なんとなく意味もなく笑ってしまう。

その後林道は緩い下り坂で歩きやすいが、途中土砂崩れの崩落箇所があり、土砂の上を登り返すところがあるので注意したい。

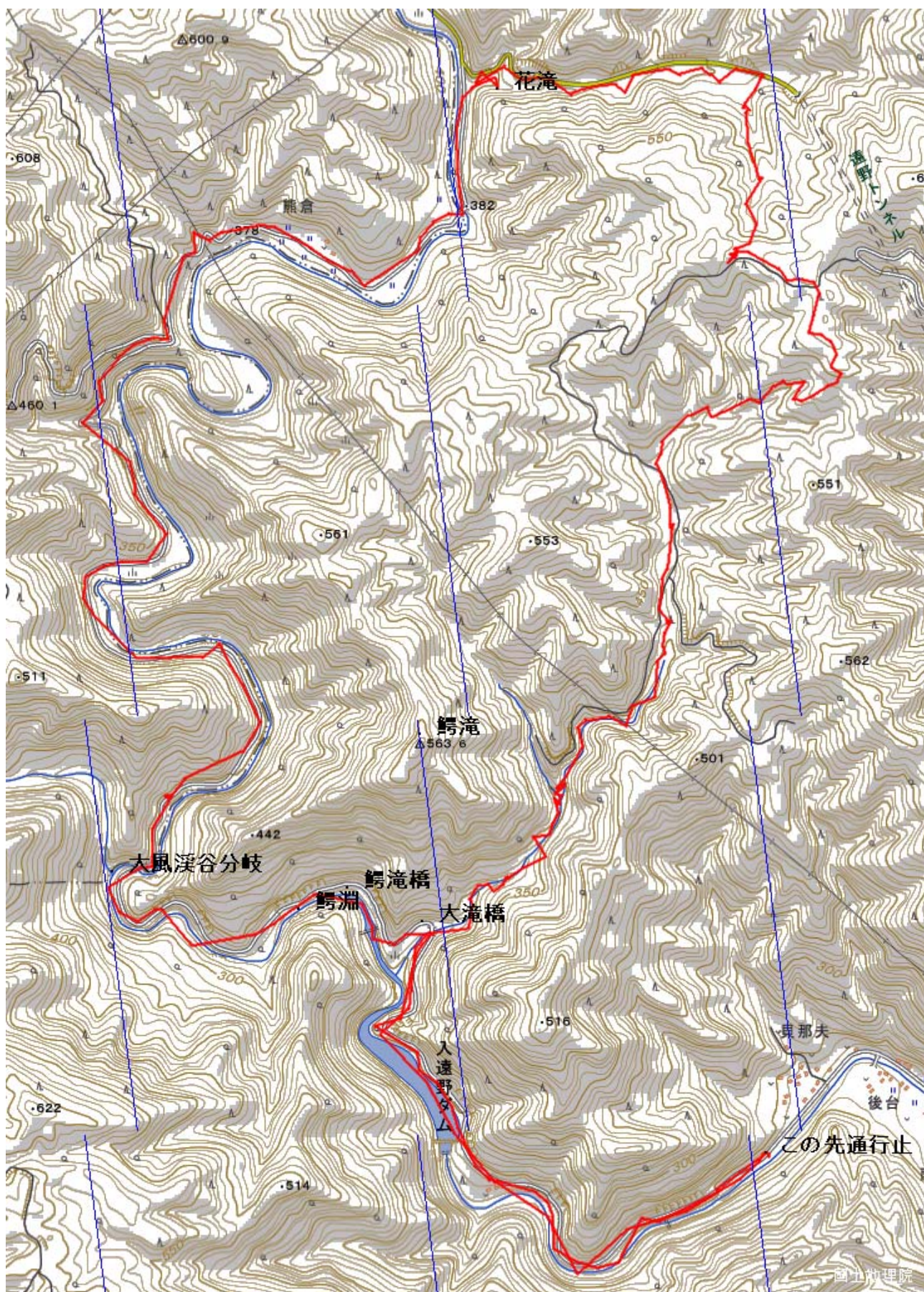
印象に残った花、紫の「ラショウモンカズラ」、線香花火のようなまん丸の花「ヒメコウゾ」、目ん玉のようなかわいい?花、「フタバアオイ」

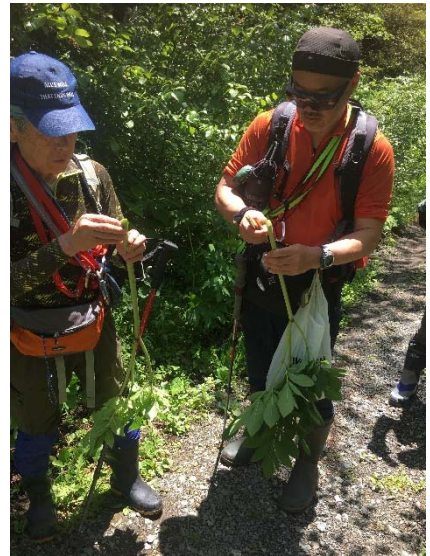
コースタイム

かげつ斎苑 7:30⇒駐車地 8:00

駐車地 8:15⇒入遠野ダム 8:50⇒大滝橋 9:15⇒沢分岐 10:05~15⇒遠野トンネル出口
13:15⇒花滝 13:50⇒大滝沢林道・昼食 12:05~35⇒大風溪谷分岐 15:10⇒鰐淵 15:
30⇒大滝橋 15:35⇒駐車地 16:05

(文責: 吉田睦)





石城登山教室5月山行『差塩三十三観音と宇宙石』

2020年5月24日(日)

山岳会：秋葉、赤塚夫妻、柏村、狩野、菊池、小林、二瓶、芳賀、長谷川、馬場、山縣

教室生：安部、猪狩、国井、佐藤(春)、佐藤(勝)、高橋、青天目、山中 計20名

8:30 水石トンネル駐車場 ⇒ 差塩登山入口駐車場

8:45 登山開始 気温 18℃

11:00 差塩三十三観音巡りを終える 気温 20℃

差塩湿原にてトイレ休憩

11:50 宇宙石にて昼食

12:50 一本ブナ山山頂へ 気温 22℃

13:10 ~ 13:50

山岳会メンバーがロープ、カラビナの実技指導を受け生徒(私たち8名)がそれを見学

14:00 三和直売所を経由し水石トンネル駐車場へ

ずっと気になっていたものの、あまりに近くて行くことのなかった差塩三十三観音を、この日拝んで来ました。

石碑を読むと江戸時代に作られたらしい。このみちのくにあって西国三十三か所参りをしたことと同じご利益があるのだとか。

手入れの行き届いた見事な杉山を登って行くと、そこここに大きな岩石が散らばっており、素朴で愛らしい石仏が並ぶ。高さ75cm 幅37cm、小ぶりで品が良い。苔むし、半ば欠けたような石仏もある中、新しく掘りの深い一体の石仏が目につきました。誰かが『色っぽい』と。

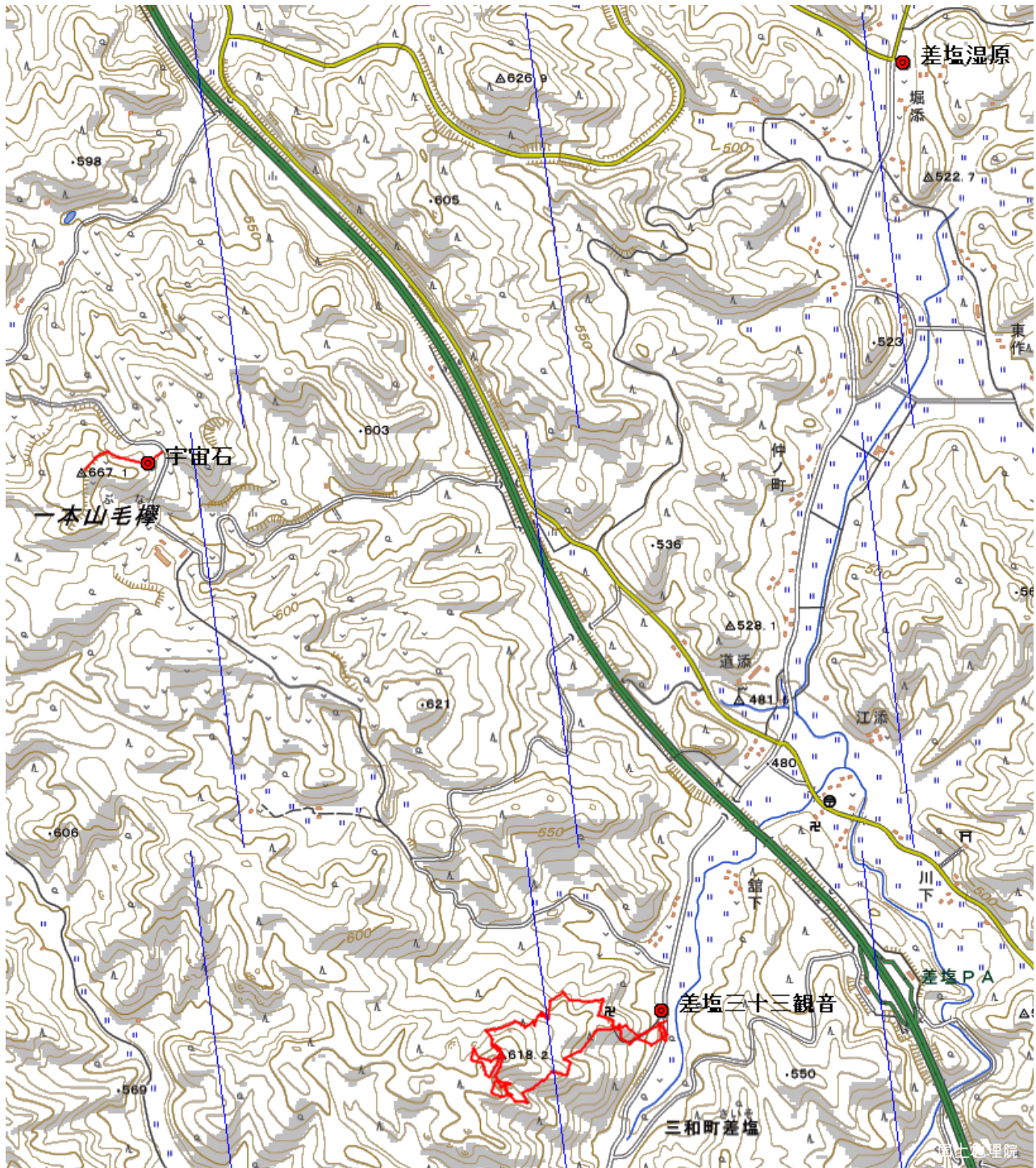
うん、確かに中性的な魅力がある。他は“めんどい”感じなのに、不思議。

前日の雨のためか、新緑がひときわ眩く吹く風が気持ちよい。

早速、ご利益があったかも。

文責 佐藤(春)





良々堂山と宇宙石

2020年5月24日（日）

楽しみにしていた実技山行。良々堂山（なんと読めばよいのか・・・最初は？だった）と宇宙石（ここはかねてから、行ってみたかった所）へ。📖の私はまず、数日前に集合場所の水石トンネル駐車場と、我が家から車で所要時間を確認することからスタート。金曜・土曜日と雨が続き、肌寒かった連日のお天気が嘘のような、山行当日は久々の快晴!! に、心ウキウキ!! 駐車場に集合後、車に分乗し参道入口へ。

市内三和町にある良々堂山は標高 618.6m の里山で三十三観音巡りができ、一帯が霊場になっている。とのことで第1番札所の手前に立っている守り神「不動明王」は、鋭い形相で目を光らせており、これから始まる札所巡りに身が引き締まる。いたる所に巨石が点在し、その上や下、はたまた巨石と巨石の間にと石仏が置かれている。途中伐採で広々とした景色が広がり、気分もハレバレ!! 遠くに見える山々は、閼伽井岳、水石山、剣ヶ峰 と教えていただく。ありがとうございます。



不動明王



ハナイカダ

道すがら、可憐な花に足を止め、羅生門かずら、ツクバネウツギ・・・と、花の名前も教えていただくが、聞いたそばから忘れてしまう有様（ポケット図鑑を買おう！っと）。

第13番札所の奥が頂上（やったー!!） 三等三角点・点名：「矢々戸」と刻まれていた。近くにあるという、第27番札所が見つけれず残念でした。また登ってみたいです。

最後第33番札所で終了。

お堂の裏にある巨石の上に十九羅漢と一緒に集合写真。

その後、差塩湿原にトイレ休憩も含め立ち寄る。

そして再び車で移動すると・・・広々とした牧草地に忽然と姿を現した宇宙石。

その上に登り、すがすがしい風を受けながらほおばった、おにぎりの、美味しかったこと!

その後、一本山毛櫸（これで プナと読むのか! 標高 667.14m 三等三角点・点名：「南山」）の頂上を目指す。途中、山岳会の方々のロープワークが行われ、スリング、カラビナ・・・等、初めて耳にする用具の名前、ロープの結び方・使い方、ただただ感心しました。

いわきにこんなところがあるんだ・・・と、たくさんの発見、体験をしワクワク!! の一日でした。

文責 猪狩由美



登山教室生徒 全員集合



宇宙石

市内3町最高峰を歩く

2020年5月24日（日）

太

市内小川町、四倉町、大久町の最高峰は、それぞれ屹兎屋山 875m、猫鳴山 820m、※ロン山（論陣山）849m。ニッ箭山～屹兎屋山の縦走路を使い、ロン山（北端）まで足を伸ばした。

ニッ箭山入口駐車場の水洗トイレで準備を整えて行動開始。まずは月山新道を使ってニッ箭山山頂。山頂を過ぎ、当初予定の峠登山口に下りる途中、会員の菅野氏がトレラン姿で追いついてきた。氏は、縦走ルートに興味湧いて来たとのこと。少しだけ一緒に歩いたが、屹兎屋山へ向けて走り去った。

峠付近の杉林を登り返し、雑木林を行くと縦走路ひとつ目の送電線鉄塔の下に出る。さらに進むと右手奥の小高いところにふたつ目の鉄塔が現われる。その付近に三等三角点「猫鳴山」772.9mがあるのだが、猫鳴山の山頂は、ここから 1.8 km 先、さらに進む。

基本的に縦走路は土塁（火防線か、境界線か）の上か脇なのだが、並行する風力発電の伐採道でとまどう。眺望のない猫鳴山山頂を通過すると、男性1名に遭遇。屹兎屋山まで行くのだという。別れて先を急ぐ。北進してきた縦走路が大きく西に転進する手前で、屹兎屋山から戻ってきた菅野氏と出会って立ち話。

菅野氏とお互いの無事を祈りつつ別れて進んだが、思い直して縦走路が西に転進する地点まで戻り、土塁に沿って北進。踏み跡はある。林道（県道 247 号）に下り、ロン山の入口に向かった。入口は大久川と浅見川の流域境あたり。山頂へ通じる電線、電柱を確認しながら砂利道を進むと広場に出て、その先は急勾配のコンクリート舗装路が直線で続く。登り切った山頂には東京電力「きっと屋中継所」。フェンスの周りが樹林と藪で眺望はない。登ってきた道越しに四倉・久ノ浜方面が少し。240m北の四等三角点「西黒森」がある、広野町との市境まで行くつもりだったが、時間もないので入口の林道まで戻る。

林道を舗装路（県道 249 号）まで下るが、途中の道はいたるところで土砂が流出して崩れ、坂を川のように水が流れ下り、とても酷い状況だった。上り返す県道 249 号も路盤が流出してアスファルト路面が大きく陥没、車両通行止めになっていた。県道の急カーブからアンテナ管理道に入り、鎖ゲートを越えて進むと、じきに屹兎屋山、南側の展望がよい。山頂で遅い昼食を取り、すぐに下山を開始すると、縦走路の北側に樹林を透してロン山が見えた。山頂に鉄塔はあるものの、円錐形の姿が美しい。

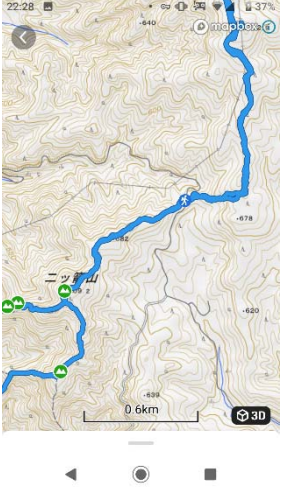
下山は、忠実に縦走路をたどってニッ箭山まで戻ったが、女体山・男体山を過ぎた先、遅くなったために沢コースは暗いと考え、山コースを使って下りた。

※図書館に「論陣山」と記された資料もあったが、旧戸渡分校に飾られた遠足写真に「ロン山」とあったので、今回は地元小学校で親しまれていた呼び名を使う。標高は地理院地図サイトで計測。

タイム

7:35 ニッ箭山入口駐車場→7:55 月山新道分岐→8:35 〆張場分岐→9:00 桐ヶ岡分岐・月山
→9:30 ニッ箭山→9:55 林道峠登山口→10:30 三等三角点「猫鳴山」→11:10 猫鳴山
→11:20 三森山分岐→12:05 林道（県道 247 号）出合い→12:10 ロン山入口→12:25 ロン山

→13:00 ロン山入口→13:20 県道 249 号出会い→13:50 鎖ゲート→14:10 屹兔屋山
 →15:25 三森山分岐→15:35 猫鳴山分岐→16:30 三等三角点「猫鳴山」→16:50 林道峠登山口
 →17:15 ニッ箭山→17:35 女体山・男体山→18:10 張場→18:20 月山新道分岐
 →18:45 ニッ箭山入口駐車場

			
駐車場（南端）→月山 →ニッ箭山	ニッ箭山→峠登山口 →三角点「猫鳴山」	三角点「猫鳴山」 →猫鳴山	縦走路→ロン山（北端） →県道→屹兔屋山



猫鳴山



屹兔屋山



ロン山の東京電力「きっと屋中継所」

八溝山 1022m

令和2年5月28日(木)

秋葉、栗崎夫妻、長谷川 計4名

八溝山で過ぎゆく春の草花や樹木の観察と、散策を楽しませていただいた。ルートは矢祭町の茗荷川沿いに作られた茗荷林道の終点、「八溝山天然林入り口」から頂上を目指すピストンのルート。

林道の間付近でゲートが閉まっていたため、登山道入り口まで沢沿いの道を心地よい野鳥のさえずりと沢の音に包まれながら3kmほど歩く。

道端には、クルマムグラ、カマツカ、クワガタソウなど、可憐な花が次つぎに咲き誇り、秋葉さんの詳しい解説をいただきながらのんびりと散策。



カマツカ



図鑑で調べながらの楽しい散策

登山道の入り口はゲートが閉じていて入れず。ここで秋葉さんの差し入れ「草餅」を食べてエネルギーチャージ。茗荷川を渡り対岸の山肌をしばらく進み、また沢を渡りルートに戻る。

沢沿いにはシドキが群生。ウドやミョウガ(地名はここから?)も自生し、シドキ祭りとなった。

残念ながら名物のシロヤシオは時期が終わり、登山道には白い花がところどころに散っていたが、ふくしまの遊歩道50選にも選ばれた「ふれあいの森遊歩道」と重なるルートには、名前と科目が書かれたプレートの付いた樹木がたくさんあり、樹皮や葉などを観察しながら歩くことができた。



ケルンに埋もれる三角点



八溝嶺神社は閉鎖されていた

山頂では、八溝嶺神社と天守閣を模した展望台が残念ながら閉鎖されていて、茨城側から登ってこられたという年配のご夫婦と一緒に昼食。

下山の途中、引き上げシステムなどに使用する滑車付きカラビナのテストと、簡単にロープを回収できるチロリアンブリッジの構築方法などを教えていただき、有意義な山行に参加させていただいた。



(文責：長谷川)

▲登り：茗荷林道ゲート
8:30→①ふれあいの森標識 9:20→②八溝山天然林入り口 9:50→③八溝山天然林看板 10:40→④大梅登山口分岐 11:20→⑤大笹山分岐 11:22→山頂 11:45

▼下り：山頂 12:15→⑤大笹山分岐 12:35→④大梅登山口分岐 12:36→(ロープワーク)→③八溝山天然林看板 14:00→②八溝山天然林入り口 14:30→①ふれあいの森標識 14:50→茗荷林道ゲート 15:25

四倉町「高倉山」

2020年5月28日(木)

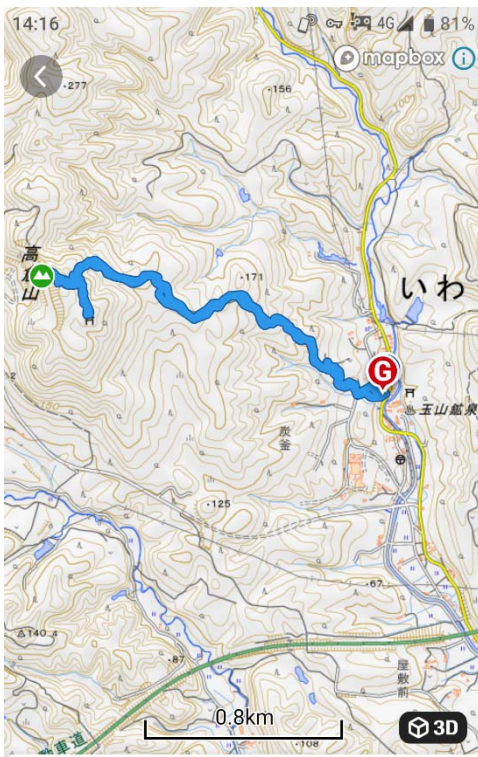
太

地理院地図では、市内に2つの高倉山がある。常磐(三等三角点「高倉山」163.2m)と四倉町(玉山地区 295m)である。常磐は5月2日に秋葉会員と2人で登ったので、四倉を1人で登る。

玉山鉱泉旅館の少し先、道路左側に県の自然環境保全地域の看板の立つ、小さな広場がある。広場手前の細いアスファルト舗装坂道を上ると、すぐにカーブミラーのある分岐で、右側のコンクリート舗装の細い道、「古峯神社」と札の掛かった鳥居をくぐる。舗装は水道の袖玉山配水池まで続くが、その少し手前左に林道(未舗装)を頂上まで登る。分岐らしい場所もないので迷うことはない。倒木や路面崩落があり、車両は通行できない。登りきると、古峯神社の裏手(本殿の後ろ)に出る。神社の広場は、樹木に囲まれ草深く、展望はない。最高地点を求めて杉林に入るが、繁茂したアオキや茨に苦労する。最高地点、採石跡の崖の上でも展望はなく、木に登って遠景を樹上撮影。休憩もせずに藪を漕ぎ、来た道に戻ると、そのまま下山した。

タイム

9:05 登山口→9:15 配水池→9:50 山頂→10:15 最高地点→10:55 配水池前→11:05 登山口



樹上撮影。左の峰が水石山、右の直線道路は農免道路



農免道路から見た高倉山。山腹西側は採石で削られた

大久町「大場山」

2020 年 5 月 28 日（木）

太

地上デジタル放送中継局「大久」(※)がある大場山に行ってみた。

久之浜中学校から登ると、おおよそ高低差 100m、距離 1.5km の舗装路なのだが、適当な駐車場所がないので、頂上近くまで車で行った。舗装路は、航空保安無線施設 VOR/DME まで続き、施設の鎖ゲートの前に駐車した。

せっかくなので VOR/DME の外観を拝見。VOR/DME は、巨大な円形のアンテナ施設で、電波で航空機の位置を知らせる無線標識とのことらしい。

駐車場所から徒歩で少し下り、分岐から砂利道を登り返すと、すぐに頂上。樹林の中に携帯電話基地思われるアンテナが立っていたが、四等三角点「大場」(147.3m) は、見つけれなかった。デジタルテレビ中継局は、頂上から少し下がった場所にある。どちらも視界が広がらず、眺望はない。駐車場所に戻る途中で、久之浜の港と町が少し見えるポイントをひとつだけ見つけた。

(※)地上デジタル放送中継局

「いわき/いわき南」(湯ノ岳)、「水石/いわき北」(水石山)、「いわき窪田」(犬飼山)、「いわき遠野」(弁天山)、「いわき湯本」(いわき湯本病院北)、「大久」(大場山)

